

## 2025年度 タイ・カセサート大学単位互換プログラム 11月報告書

獣医学群獣医学類 5年 石川結梨(Yuri Ishikawa)

6週目に差しかかるころには、すっかりタイでの生活にも慣れ、勉強とプライベートともにさらに充実した日々を過ごしておりました。

日々の生活での小さな困りごとをはじめ、様々なことを助けてくださったカセサート大学のスタッフの皆様、先生方そして、日本からサポートをしてくださった酪農学園大学国際交流課のお二方と先生方に大変感謝しております。

### ● 6週目(Bovine Unit)

6週目の実習は Bovine Unit (2週目) でした。1週目と同様に、こちらのユニットでは実際に往診に随行させていただき、現場では何が問題で、どのように治療・対策をしていくべきかを見て学びました。1週目と同じ農場に往診へ行くことで、症例の経過を見ることができ、治療がどのように作用しているのかを確認することができました。

1週目では行わなかった妊娠鑑定、繁殖検査に立ち会わせていただくことができました。こちらの方法は日本とほぼ同様で、直腸検査や超音波を用いて卵巣や子宮の様子を確認しました。2週目になると大分、牛のハンドリングにも慣れ、身体検査もスムーズにできるようになりましたが、直腸検査は大変難しく、なかなか卵巣を触知することができず手間取ってしまいましたが、先生方に丁寧に分かるまで教えていただきました。

ワクチン接種では、素早く牛の胸囲を測って体重を推定し、そこからワクチンを準備してすぐに接種するという作業を体験させていただき、大変良い経験となりました。

また、水牛の診療に参加できたことは大変貴重な機会となりました。生まれて初めて間近に見る水牛は大変大きく、その威圧感に圧倒されてしまいました。普段触れている乳牛と違い非常にアグレッシブで、躊躇ないように気を付けて身体検査をすることに必死でしたので、慣れた手つきで素早く採血を行う先生には感動てしまいました。

そして Bovine Unit では往診のため、お昼は先生方がローカルなお店へ連れて行ってくださいり、それがとても楽しみでした。お店へ行く前に先生方がある程度こちらの好みを聞いたうえでお店に事前にオーダーしてくださるので、先生のチョイスが加わっており、お店について何が出てくるのかワクワクしていました。

### ● 7週目(Pathology Unit)

7週目は Pathology Unit での実習でした。

実際の血液塗抹標本と血液検査結果を基に、どの血液寄生虫に感染しているかを考察したうえで、自身で確定診断のために DNA 抽出と PCR を行いました。

核酸抽出や PCR は私が所属しているウイルス学ユニットでも普段から行っているため、原理や手順を理解しやすかったです。

血液塗抹標本と血液検査の結果だけでは、知識や経験の乏しい私たちにはどの寄生虫であるか判断するのが難しく、特に *Babesia* spp. と *Theileria* spp. の血液塗抹上での区別は大変困難で、PCR の信頼度の高さを実感しました。一方で、PCR でコンタミネーションを起こしてしまった実習班もあり、ピペット操作をはじめとする手技の難しさを改めて感じました。

また、鶏とアヒルの解剖の実習があり、2人1組で1羽を解剖しました。

健康な鶏とアヒルと、細菌感染が起きている個体の両方を解剖することで、正常組織と病変組織を比較し、どのように変化が生じるのかをより深く理解することができました。

さらに、正常な鶏であっても雌雄で所見が異なる点があり、特に雌の方が脂肪組織が多いことを確認できたのも興味深い学びとなりました。

#### ● 8週目(Equine Unit)

8週目は Equine Unit での実習でした。

私は日本で馬について勉強する機会が残念ながら今まで少なく、今回の実習をとても楽しみにしていました。

実習では主にタイポニーを用いており、タイポニーは体高が低くハンドリングしやすいため、頸静脈からの採血や筋肉内投与を実際にさせてもらいました。

特に印象的だったのは、腹部超音波検査の練習と蹄のレーザー治療です。

超音波検査に関しては、実際に腹部の7カ所のポイントに自分でプローブを当てて確認しましたが、どこにプローブを当てるべきか頭では理解していても、実際に明瞭に描出することは難しく、何度も先生に助言していただきながら行いました。大変良い経験となりました。レーザー治療については、過去の派遣学生の方の報告書を読んだ際に興味を抱いており、実際に先生に「体験してみたい人はいる？」と聞かれた時に、即答で名乗り出ました。

先生のお話によると、炎症の軽減や血管新生の促進などさまざまな効果があり、蹄疾患などで導入されているそうで、こちらも貴重な経験となりました。

#### ● 9・10週目（ホアヒン、Veterinary Teaching Hospital）

9・10週目はカンペーンセンから南西部のホアヒンに移動し、Veterinary Teaching Hospital にて小動物臨床の実習を行いました。

こちらの病院ではドクターの皆さんをはじめ、スタッフの皆さんのが大変優しく温かく迎えてくださいました。廊下などでお会いした際には必ず声をかけてくださいり、何か不便なことや困っていることはないかと常に気を配ってくださいました。

小動物臨床実習の経験が乏しいうえに、母国語ではない環境で理解できるのかと不安が大きかったのですが、皆さんとても親切で、分からぬことがあれば嫌な顔ひとつせず、忙しい中でも分かるまで丁寧に教えてくださいました。

特に印象的だったのは、タイ以外の国出身のオーナーさんが多く、先生方が英語で双方に誤解のないよう丁寧にコミュニケーションを取っていたことです。

オーナーさんのお話にしっかりと耳を傾け、不安を取り除くように分かりやすく説明して

いる姿を目の当たりにし、自身の英語力をさらに向上させなくてはいけないと強く感じました。

また、ホアヒンは観光地で、滞在していた寮からビーチも近くとても良いロケーションで、この土地で学ぶことができたのは大変贅沢な経験だと感じました。

#### ● 研究室活動

放課後には、私が所属しているウイルス学ユニットの担当教員である萩原克郎先生に紹介していただき、Manakorn先生 (Laboratory of Molecular and Diagnostic Innovation, カンペンセンキャンパス) の研究室で、ご厚意により、豚の糞便からのウイルス検出を目的としたRNA抽出やPCRなどの実験をさせていただいておりました。

こちらの研究室では、私が現在、学んでいるウイルス学分野をはじめ、様々な研究が行われており、研究室のメンバーも獣医学だけでなく、化学やアニマルサイエンスといった多様なバックグラウンドを持つ方が在籍していました。実験手技の指導に加え、各々が取り組んでいる研究テーマについても教えていただきました。

タイへ行く前から Manakorn先生のお話を萩原先生から伺っており、研究室に大変興味を持っていましたため、とても有意義な時間となりました。

同じ実験キットでもプロトコルが異なっていたり、研究室の設備も酪農学園大学のものと違っており、大変良い経験となりました。この経験を日本での今後の研究室活動にも生かしたいと考えております。

また、先月に引き続き休日は友人と過ごし、最も印象に残っているのはホアヒンで Phraya Nakhon Cave に行ったことです。

洞窟までの道のりはアップダウンの激しい岩場で、息を切らしながら向かった先で見た景色は息をのむほど美しく、忘れられない思い出となりました。

最後に、本プログラムを通して貴重な機会を得ることができたことに心から感謝いたします。

終始サポートをしてくださったカセサート大学のスタッフの皆様、先生方、友人たち、そして酪農学園大学国際交流課のお二方と萩原先生をはじめとする先生方、留学への一歩を踏み出すために背中を押してくれた家族と研究室のメンバーに深く御礼申し上げます。

なによりも、一緒に留学期間を過ごした酪農学園大学と北海道大学の10人の仲間には、感謝を伝えきれません。

困難な場面も楽しい瞬間も共に過ごしたこの時間は、私にとってかけがえのない宝物です。本留学を通して得た経験のひとつひとつが、今後の学びや研究活動に大きな糧となると信じております。

改めてこのような貴重な機会を与えてくださったすべての皆様に、心より御礼申し上げます。今回得たご縁と学びを大切にし、広い国際的視野をもつ獣医師を目指して、これからもより一層、努力してまいります。



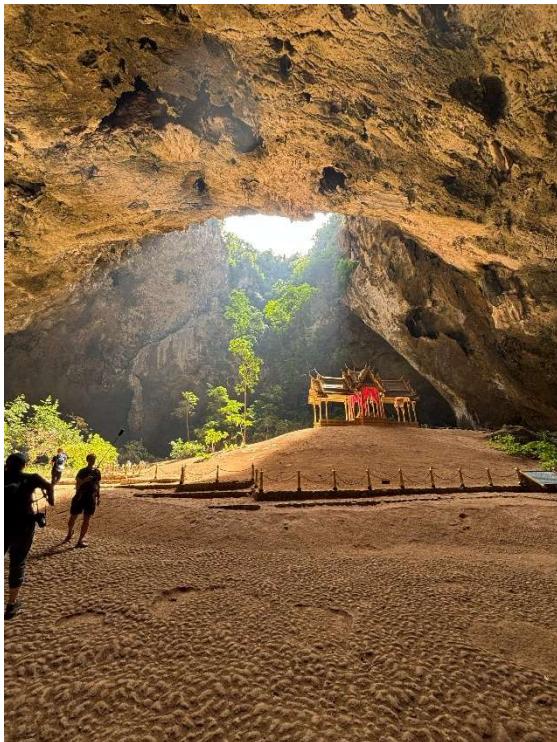
↑牛の直腸検査を行っている様子



↑馬の蹄にレーザーを当てている様子  
施術者はレーザービームから目を保護する  
ためにサングラスをする必要があります。



←大変お世話になった Manakorn 先生と研究  
室の方々と同じく派遣学生の松井さんとの  
集合写真  
みなさんとも親切にしてください、感謝し  
ています。



↑ Phraya Nakhon Cave の絶景



↑ ホアヒンにある cicada market (ナイトマーケット)

食事だけでなく、雑貨屋や絵などの芸術作品を  
あり様々な楽しみ方ができます。



↑ 酪農学園大学・北海道大学・カセサート大学・ハンガリーからの留学生の集合写真  
カセサート大学の友人たちと来年1月に日本でまた会える  
ことが楽しみです。



→ ஹோய்தோப்ளாஹ்மீக (ホイトート・プラームック)

何度もリピートした大好物の white canteen のホイ  
トイト (お好み焼きのようなもの)  
色々お店で食べましたが white canteen のホイトイ  
トが一番でした。